

合併までの沿革

- 福田町体育協会
- 竜洋町体育協会
- 豊田町体育協会
- 豊岡村体育協会

- 合併協定書

福田町体育協会の沿革

福田町体育協会の発足を語るには、福田の野球歴史を抜きでは語る事が出来ない。

昭和4年に静岡商業高校を卒業した、高須 廉 氏、当時は静岡高校の近くに住み、静高野球部の練習コーチ指導をしていました。その後、高須さんが福田に移り住んで来た頃、同じ時に掛川西高校で野球の経験を持つ佐藤八策（中島）・浜松師範卒業の石川初男（鮫島）神谷元一（竜洋中瀬）大竹 修（福田）らが福田小学校教師に赴任、当時銀行員の内山 覚（福田）らの若者に野球を指導した事により、福田に野球に掛ける情熱が高まってまいりました。

当時の福田小学校6年生で、『鶴野 洋、寺田猪八、鈴木庄一、鈴木嘉二、後藤種晴』同じく5年生で『鈴木武夫、百鬼末太郎、田島 寛』らで、昭和7年には『福田クラブ』が結成され、古沢嘉男、植田安由、投手・鶴野洋、捕手・鈴木庄一、古沢嘉男、寺田兼良、杉浦甚助、鈴木武夫、伊藤修二郎、落合正人、1塁手・石津正彦、2塁手・三ツ谷富士雄、3塁手・寺田猪八、遊撃手・田島 寛、右手・百鬼末太郎、中手・鈴木武夫、左手・後藤種晴らが中心選手で福田小学校校庭や見付小学校、二俣小学校等の対抗試合にも参加した。指導は佐藤八策、大竹 修代理教員らであった。そして戦争に出役で一時中止する。

その後昭和21年度に再び福田野球が復活し『暁クラブ』組織を結成、投手に鈴木武夫、捕手・寺田清太郎、落合正人、1塁手・石津正彦、2塁手・後藤種晴、3塁手・百鬼末太郎、遊撃手・鈴木嘉二、右手・田中浦司、中手・太田竹十、左手・伊藤修二郎らが中心選手、相手チームは、袋井の猛虎、二俣岡田ゴム・掛川は曙、福田は暁、見付は朝日、磐田は番人チームなど若者が近隣市町との定期戦を各小学校の校庭を借用し開催した。地区外では、浜松の繊維関係で、カネ三織物、測候所、裁判所職員等とも浜商グラウンドにて試合を行った。また、森町にも遠征した。ユニホームはコール天生地で作り、健康ボールは三ツ谷富士雄さんが役場に勤めており、配給制度により1ケ8銭で購入使用する、特に野球の後援会にも理解してくれた。寺田祐一、高須 廉、鈴木弥一、加藤善一、寺田徳三郎各位には資金面や対外試合での支援と指導に感謝する。

○昭和11年の五輪大会 第11回ベルリン大会に水泳の部1500m自由形で伊藤 登選手（旧姓寺田）が金メダル優勝し、豊浜村の伊藤三郎選手は平泳200m（2分47秒6）で第5着、陸上競技、明治神宮大会1500mに加藤博選手が出場し活躍した。

最近では、平成4年第25回バルセロナ、オリンピック大会女子柔道52kg級に溝口紀子選手が銀メダル入賞、続いて第26回アトランタ、オリンピック大会にも連続出場、健闘する成績をおさめた。

平成7年にはオリンピック出場者の偉業を顕彰し、温水プール・武道場を備えた福田町屋内スポーツセンターが竣工した。

○昭和32年10月には第12回国民体大会が静岡県内を会場に開催された。

その折り浜部出荷場から大原経由で、豊浜江川橋までの区間町民の声援を受け国体旗が27分間沿道を走破して浅羽町に渡された。

○国会法律で体育省が設置され、スポーツの重要視から各市町村に体育課を置く様になる。町は、佐藤八策、百鬼末太郎、伊藤修二郎の3名を青少年の心身の健全とスポーツ認識と振興の為、体育指導員に任命し活動を願った。

○ 同じ時、町は若草会を発足させ、青少年の不良化防止と保護育成に力を入れた活動組織が出来上がった。

○昭和33年12月には福田小学校グラウンドにて年齢別野球大会が開催され、21才から28才までのチームで野球連盟と町商店会の協賛で野球大会を開催し25才チームが優勝した。この大会も引き続き開催された。

○福田野球連盟も静岡県連盟、全国連盟の組織の中で昭和33年11月15日開催の静岡県下都市対抗野球大会に磐周代表とし、福田キングが出場、三島三共製薬と対戦し4対3で惜敗する。

○町はスポーツを通し青少年育成を図る目的で、若草会に体育組織作りを呼び掛け、各自治会にスポーツに理解と熱心な方の推薦を願い、若草会組織に体育係の選出を願った。

◎体育協会の設立は、昭和34年8月29日会長鶴飼徳雄で福田町体育協会役員組織が発足した。

○昭和34・35年福田町は文部省から青少年スポーツ活動の研究指定を受け、町教育委員会の協力のもと青少年層への指導が展開された。

○町体育協会と青少年スポーツクラブ組織が互いに協力し、若草会体育協会と協賛し部落対抗ソフト、バレー

ボール大会を開催する。第3回大会には各部落から75チームが出場。ソフトボールには、44チーム・バレーボールには31チームが参加、珍プレー・迷い技などを交えての競技大会であった。

- 昭和37年8月22日、磐田北小学校グラウンドに磐田郡、周智郡が一同にかいし、中遠子供ソフトボール大会が開催された。
- 昭和39年10月東京オリンピック大会が開催され、福田町からは20名の聖火リレー隊を編成、10月4日に袋井から掛川の区間1.7kmに参加した。
- 昭和39年11月8日国際身体障害者スポーツ大会（パラリンピック）に静岡県代表で鶴飼徳雄（46才）が水泳50m平泳で金メダルと陸上100m競争で銀メダルを獲得、戦傷の身でありながら、精神的な努力で身体障害者に明るい希望を与えてくれた。
- 町民駅伝大会は、昭和38年2月から平成18年までの間、実施された。
- 平成15年度10月第58回国民体育大会NEW!!わかふじ国体が開催、福田町はロードレースと軟式野球の会場となりました。ロードレースは、国道150号線を通過するだけでしたが、軟式野球は数試合が福田公園野球場で行われ町内の幼児・小学生・中学生が応援に駆けつけ試合を盛り上げてくれました。
- 平成16年度の体育協会組織は12部門でありました。野球、ソフトボール、男子バレーボール、女子バレーボール、卓球、剣道、柔道、空手道、陸上、テニス、バスケット、サッカーで、町内外の大会に積極的に参加していました。町内各スポーツ団体は、主催大会に、会長杯・町長杯・天龍社杯・農協杯などを冠に大会を開催、継承してきました。
- 体育協会の活動としては、幼児向けの体操教室、プール教室など多くの町民参加型の活動を行い、指導・助言を行ってまいりました。
- 平成16年度役員は、以下の方々でした。

- ・会長 三ツ谷 金秋
- ・副会長 相場 良造
- ・副会長 田中 公仁
- ・副会長 本間 郁朗
- ・理事長 寺田 廣之

竜洋町体育協会の沿革

昭和34年、社会環境も大分落ち着きを取り戻した中、健全なスポーツ活動を願う人達の熱意が実り、県や町当局の要望に応じて竜洋町に“体育協会”が誕生しました。その誕生を記念し“第1回竜洋町民体育大会”が開催され、以後、平成16年の竜洋町体協の最後の年まで46回を数えるまで回を重ねて開催を続けました。

“竜洋町体協”が誕生する以前は町内のスポーツ愛好者のグループが野球や柔道、テニス、水泳等を行っていましたが、それぞれ体育協会の組織に加入をして活動を始めました。

初代会長には当時農協組合長の島田健次郎氏（白羽）が選ばれ、昭和37年12月12日、県体育協会加盟が承認されました。

当時は野球が中心で、本町の大澄昌司氏、砂町高塚季夫氏・鶴田時二氏等が中心となり町内の若者達に呼びかけてチーム作りや大会運営等に尽力されました。

柔道は杉島六二氏、中村功氏等が中心になり、掛塚の保育園を借り寒稽古など熱心に行われました。

昭和37年度は竜洋中学校運動部の黄金時代で素晴らしい成績をおさめ、野球も県大会優勝をとげる等、町民のスポーツ熱は益々高まり、竜洋町体協も応援の資金集めに大いに協力をしたものです。

昭和37年度までの4年間、島田会長を中心に竜洋町体育協会の基礎も固まり、翌38年度より新村慶治氏（横町）が第2代会長となりました。

昭和39年の東京オリンピックには水泳競技に川袋の大隈潔選手と堀之内の服部公子選手（旧姓佐藤）が出場しました。当時体協顧問であった稲勝正太郎氏が後援会長となり、体協も郷土出身選手の応援激励に全面的に協力をしました。

昭和40年度は石井信市氏（砂町）が会長に就任しました。この頃には体協役員も60数名を数えるに至り、昭和41年度には磐田郡下では初めての“竜洋町スポーツ少年団”が誕生しました。

昭和46年度は社会体育施設に関する嘆願書を町当局に提出、そしてこの頃「南天竜グラウンド」も整備されて来ました。

昭和48年度には高安淳司氏（中平松）が会長に就任し、益々事業内容も充実し役員も130数名を数え、各部門の活発な活動が展開され、300歳ソフトボール大会など自治会単位で70数チームが出場した程の盛り上がりを見せました。

その他、バレーボール、卓球、弓道や駅伝大会等、体協各部役員の努力により社会体育底辺の拡大に努めてきました。

昭和49年度に体協の組織として各部門の代表者を“常任理事”とし、昭和50年度には少林寺拳法が加盟し、体協の組織も9部門を数えるに至りました。

昭和53年には蒲ヶ原勇熊氏（白羽）が会長に就任。この年より無差別ソフトボール大会、農協組合長杯バレーボール大会が行われました。又この年“勤労者体育センター”が完成。室内競技の主会場として、多くの団体が利用し、一層充実した練習が出来るようになりました。

昭和55年には天竜川河川敷に西堀グラウンドが完成し、ソフトボールなどが盛んに行われました。

昭和57年度には、鈴木勤氏（宮本）が会長に就任。この年、10月に竜洋町体育協会が長年に渡り社会体育の普及振興に努めた事が認められ「文部大臣賞」を受賞をしました。

また、この年より南天竜地区の開発が計画され、翌58年4月にB & G財団の竜洋海洋センターが完成し、体育館、プール、海洋訓練に必要なボートやカッターなどを備えた艇庫が完成し、竜洋町のスポーツの拠点となりました。

昭和59年に「竜洋海洋公園多目的広場」が完成。昭和60年「海洋公園野球場」「海洋公園親水プール」が完成をしました。

昭和61年度には松本義雄氏（駒場）が会長に就任。この年、海洋公園内に弓道場が完成したのを契機に、休部をしていた弓道部が復活して活動を始めました。

そして昭和63年度に4面を有する“屋内テニスコート場”が完成。これを機に「テニス部」が発足加盟。竜洋町体協も10部体制になり、さらに元号も「平成」に改まった平成元年に「空手部」が加入し11部体制になりました。

平成2年度に相場三智雄氏（竜洋中島）が会長に就任。平成4年、活動を続けてきた「弓道部」が活動休止。翌5年、「ゲートボール部」が体協に加盟をしました。

平成6年度に大庭隆一氏（中町）が会長に就任。平成8年度に“竜洋スポーツ公園（サッカー場）”が完成をしたのを機に「サッカー部」が、また「トライアスロン部」が体協加盟。さらに平成15年度には「ボクシング部」「グラウンドゴルフ部」が加盟をして15部となりました。

平成16年度に松下孝氏（江口）が会長に就任すると同時に“体協合併協議”が本格化。合併協議を進める一方、「竜洋町体育協会」としての行事の整理を始めました。その結果、竜洋町最大のスポーツイベントである「第46回竜洋町民体育大会」は最大の盛り上りを見せて、46年の歴史を閉じました。

そして長期間の合併協議の結果、平成17年4月1日をもって「NPO磐田市体育協会」として対等合併。結果「竜洋町体育協会」としての歴史を閉じました。

歴代会長在職一覧

氏名	地区名	在職期間	氏名	地区名	在職期間
島田健次郎	白羽	昭和34年～昭和37年	鈴木勤	宮本	昭和57年～昭和60年
新村慶治	横町	昭和38年～昭和39年	松本義雄	駒場	昭和61年～平成元年
石井信市	砂町	昭和40年～昭和47年	相場三智雄	中島	昭和2年～平成5年
高安淳司	中平松	昭和48年～昭和52年	大庭隆一	中町	昭和6年～平成15年
蒲ヶ原勇熊	白羽	昭和53年～昭和56年			

平成17年4月1日磐田市体育協会合併

豊田町体育協会の沿革

豊田町のスポーツ活動は、昭和30年頃よりいくつかの地域でスポーツのサークルができ、地域の運動会とか他地域のサークルとの親善試合が行われるようになりました。

そこで昭和34年に行政主導による豊田町体育協会が設立されました。当時は小中学校の校内運動会や地区運動会を中心とした陸上競技にレクリエーションが加わったものが主流に行われるようになっていましたが、体育協会の発足により球技スポーツの普及が図られ、豊田地区のスポーツの発展の基礎が築かれました。

発足当時の体育協会は、伝統の陸上競技部をはじめ野球部、排球部、卓球部、水泳部、剣道部、柔道部、の7部によって組織されていました。

このようにしてスタートした豊田町体育協会は、設立の関係した多くの人達によってめざましい発展をとげた、なかでも住民の理解と参加を得る方策として、バレーボールの技術指導と講習会を町内各地を巡回して実施すると共に、体育指導者の養成や社会体育の復興のためのPR活動はすばらしい成果をあげることができました。この結果協会発足初年度にもかかわらず、水泳大会、卓球大会、野球大会、バレーボール大会、村民体育大会等各種大会を開催するに至り町民多数の参加を得ることの出来たことは、社会体育が、体育協会発足と共に住民の生活の中に浸透してきたものと考えられます。

その後も各種大会を継続すると共に、スポーツ人口の拡大を図る一つの大きな事業として村民体育大会を村を上げて盛大に実施してきました。

しかし、これまで純農村として発展してきた豊田町も昭和40年代に入り、浜松、磐田市のベッドタウンとして人口が急増し、町民の2人に1人は他市町村からの転入者が占め、新旧住民の地域における連帯意識はうすれつつありました。

このような状況下町ではスポーツを通じて地域住民の人づくりと望ましい人間関係をつくるため、昭和48年には全町民の体力づくりを提唱し、各種施設にも予算が振りあてられました。これを受け、体育協会においても組織の強化をはかると共に、これまで体育協会長は、村長、町長が兼務していたものを、会長を民間へという働きかけをしました。その結果民間のスポーツ指導者が昭和51年に会長に就任しました。それ以来地域と濃い関係をもったきめこまやかな活動が行われ、老若男女だれもが自ら求め、やるスポーツの機会づくりに努め、スポーツの人口の増加と大衆化を図るようになりました。更に、スポーツを住民各層に普及させるため、町内の各行政区に、体育部を設置し地域独自のスポーツ活動を盛り上げようとする気運が高まり、昭和48年に6地区で体育部が誕生しその後順次結成され昭和51年度には、全行政区に組織され、体育協会の傘下に入り、その後めざましい発展が見られるようになりました。

行政区の体育部の躍進により多岐色の濃かった体育協会も、競技種目を専門的に行う競技団体が組織されるようになり、11競技団体が加盟しました。そのことにより競技団体が体育協会の核となり活動盛り上げるようになりました。しかしその競技団体も個々の活動のみ熱心になり縦割り化が目立ち豊田町のスポーツ復興や普及といった、もっと広域的に目を向けていこうとの考えから、まず組織が組織として機能していないのではということになり、その見直しを図ることになりました。

「集める体育協会から、集まる体育協会へ」のスローガンを掲げ町民一人一人に注目される体育協会を目指しました。体育部や競技団体から、優秀な指導者や役割をピックアップし、総務部を構成、それに行政の職員を交え、表面化していた問題点、課題などにつき議論をはじめましたが、予想以上の問題点が浮上、その問題点解決のために長い時間がかかりました。まず総務委員会の中に三つの委員会を作り、共通問題の議題を半分、委員独自を半分で話し合いをし、毎月第一金曜日に全体会を開き徹底的に議論を重ねました。途中なぜこのような問題点が想像以上に多くなったのかが大きな話題になりました。議論の末で結論はその場しのぎの場合当たりの対応が原因ではないかと考えました。この時のことはそれから後の問題解決や目標決定に大きな役割をはたすことになりました。

二年の徹底的な議論の末、競技団体あるいは体育部でそれぞれに抱えていた問題点につき各団体で意見交換が可能となり、共通の意識を持つことができるようになりました。

この重要な役を果たした総務会は合併するまで活動を続けるようになりました。体育協会の雰囲気づくりに一役担っていました。

試行錯誤の上自分達の好きなスポーツを自分達だけで楽しむのではなく、すべての町民が、楽しめるような地域に密着した組織活動に目を向け始めましたそういった体育協会自体の意識改革をすることにより、加盟団体も増え、大会も増えると共に、参加者が急増するなど、町全体の意識の改革につながっていきました。

これらの成果が評価され、財団法人日本体育協会スポーツ少年団より、豊田スポーツ少年団が表彰されました。また同じ平成5年、文部省より豊田北ジュニアフットボールクラブが、社会体育優良団体として表彰され、平成6年度には、文部大臣より、豊田町体育協会が、社会体育優良団体として表彰され、平成7年度には、静岡県ソフトテニス協会より、健友「ソフトテニスのスポーツ少年団」が、優良団体賞を受賞しました。

平成に入る頃より、行政サイドでは体育施設の改良、手直しに力を注いでくださり、スポーツ環境も大きく変化をしました。

スポーツの拠点アミューズ豊田完成

スポーツ環境の大きな変化は、平成4年着工、平成6年に完成した、アミューズ豊田が大きく影響しました。これを機に、今まで話し合ってきたことの実現に向けて、一気に加速することになりました。

毎年の目標も過去の二の舞にならぬよう後々のことを考え決定しました。またそれと同時に合言葉、「自分が動けば人は動く、動く人の周りに人は集まる、人が集まればアクションを起こせる」この合言葉は、総務会の中で折にふれ話し合われ、多くの面で効果を生むようになりました。

しかし残念なことに今まで盛んに実施されてきた町民体育大会が、生活様式の変化、人々の趣味の多様化など様々な要因により休止ということになってしまいました。

体育協会の組織改革を実施して5年までには、それまでの問題点は略改善されてきました。しかし新手の問題が表面化してきました。今まで、スポーツ活動の拠点は学校体育及び部活動が中心を担っていたのが、現状維持できなくなってきたのです。指導者不足は中学校だけでなく、体育協会としても問題化してきていたのです。

今後のことを考えた時、地域が、スポーツの推進の担い手になるであろうと考え、総合型地域スポーツクラブの学習会を始めました。その中で学校週5日制の受け皿としても、幼少期から老齢期まで一環したスポーツ教育、指導を受けることができるようなシステムを作る上でも、優秀な指導者の育成が、急務であると考えました。

そこで、競技団体、スポーツ少年団の指導者を対象に、平成10年に指導者養成講座を開催しました。と同時に、小学校3年4年を対象に、スポーツスクールも始めました。毎月第2第4土曜日に、他種目のスポーツを行いました。このスポーツスクールは現在も継続されています。

平成11年には、豊田ラブリバー公園テニスコートが完成多くのテニスの大会が開かれるようになりました。また平成12年には、3年ほど前から模索していた車椅子ツインバスケットボール大会が実現されました。同時に長藤マラソンに障害者の方も一緒走ろうと呼びかけをし、聴覚障害の人のため手話による開会式を、視覚障害の人には伴走者つけるようにしました。車椅子ツインバスケットボール大会は、最初、関東、東海、近畿、から6チームの参加で実施されましたが、本年は中四国が入り8チームで行われました。また長藤マラソンで走り始めた視覚障害者の新野正仁選手は、日本代表として北京パラリンピックに出場しました。長藤マラソンも現在継続されています。

平成15年に豊田グラウンド「軟式野球場」が落成しました。ここまでの間に、小中学校全体に夜間照明が設置され、駐車場が拡張整備され、地域のスポーツ活動の活性化に大きく寄与しました。

体育協会の組織力が発揮された第58回国民体育大会

平成15年10月26日（日）から29日（水）までの4日間、第58回国民体育大会「NEWわかふじ国体」バスケットボール競技会成年女子の部が、豊田町「アミューズ豊田」「豊田南中学校」を会場に開催されました。

この国体は、平成12年4月から本格化し、平成14年に16民泊協力会全ての組織ができ、国体選手達を温かく歓迎する母体が完成しました。何から何まで初めてのことだけに不安と緊張の中で進められました。その中で、各種の実行委員会、民泊協力会の中核となったのが体育協会でした。中でもチームの応援は、民泊協力会が中心となり老若男女入り混じっての大応援団でした。選手達を勇気付け、共に闘い喜びや悲しみを分かち合いました。心に残る感動的な「わかふじ国体」になりました。

体育協会設立より、いくつかの節目の中で一番大きなものは、アミューズ豊田の完成でした。環境が人を造

るまさにその言葉の通り大きく伸展しました。

そこで真価が発揮されたのは、皆で進めてきた体育協会の組織改革でした。組織が組織として機能することのすばらしさを体験することができました。



豊岡村体育協会の沿革

協会の歩み

昭和30年4月1日 広瀬村、野部村、敷地村の三ヶ村が合併し豊岡村が発足した。合併当時村内におけるスポーツ活動は青年団によるスポーツ大会が行われる程度であったが、昭和32年第12回国民体育大会（静岡国体）が開催されるにあたり、村民の中に、スポーツによる体力向上を計ろうという気運が盛り上がり昭和33年4月1日豊岡村体育協会が結成されました。初代会長に大須賀謙一氏があたり村民体育大会を主要行事として活動した。

活動の内容

昭和33年発足した体協は2代会長、藤森常次郎氏が昭和34年就任以来「村づくりは人づくりから、人づくりは教育から」をモットーに、この基本理念を目指し、その一手段としてスポーツの振興に意を注いできたが、国の高度経済対策に伴い若者たちは村を離れ都会の職場へと出て行った為、過疎の村と化した。その為、村のスポーツ振興は遅々としてすすまなかった。従って体協結成当時の会則は実状にあわなくなり昭和45年4月1日会則の大改正を行った。

目的

体協結成当時から愛好者が集まり細々と活動してきた部門も、過疎の中で特に進展を見ることが出来なかった。（昭和45年5月3日豊岡村総合センター運動場開き）

昭和45年7月、天竜川に浜北大橋が完成し、村内には大企業が進出して来るとともに、過疎化の現象も好転し人口増加の傾向が見られるようになって来た。その頃から、村民の間にスポーツによる余暇利用として、父親ソフトボール、婦人バレーボール熱が盛んになってくると同時に、小グループによるスポーツ同好会が生まれつつある。この間にも村内出身の選手が国民体育大会等の全国大会へ出場して活躍しているが、その成果は輝かしいものがある。各自治会、各種団体及び種目別体育団体を育成し組織されているが、主要行事としている行事はやはり村民体育祭であり、種目別体育団体も、野球部、ソフトボール部、テニス部3部門のみである、しかし最近各種のスポーツ愛好会が生まれつつあり、この愛好会を結集し種目別体育団体を充実させた。

事業

種目別体育団体による自主的協会に組織改善の為の準備を進め、昭和53年4月1日より新体制で発足に至る。

体育協会が競技団体として歩み始めてはや10年を過ぎようとしており、発足当時はスポーツ人口もすくなく村のスポーツ振興の基盤づくりを目標に村当局、各スポーツ団体及び村民の協力の結果、野球部会、ソフトボール部会、テニス部会をはじめ、バレー部会、剣道部会、弓道部会、陸上部会、を立ち上げた、平成元年の県スポーツ祭に於いては参加53町村の内、第8位に入賞し、県教育会館において表彰式が行われ栄えある賞を受賞した。今回の受賞を機に豊岡村のスポーツが益々盛んになるよう一層の努力を行っていく。

平成年度に入り益々競技団体加盟が増し、卓球部、ゲートボール部会、インディアカ部会、射撃部会等が加わりスポーツ人口の増加につながった。

しかし、平成15、16年頃より少子高齢化に伴いスポーツ人口が激減し各競技団体の部とも減少した。1977年（昭和52年）第1回、とよおか村駅伝競走大会がスタートした。

各自治会単位でのチーム編成、村民総動員で一喜一憂した。

平成15年10月4日 第58回国民体育大会、大会旗、炬火リレーを浜北市より受け継ぐ。（豊岡総合センターより、豊岡村役場まで。）

平成15年10月26日～29日 国体軟式野球大会実施（豊岡村民野球場にて）

組 織

初代会長 故大須賀 謙一

二代会長 故藤森 常次郎 副会長 市川 清雄

三代会長 市川 清雄 副会長 故西田 壮夫

四代会長 故西田 壮夫 副会長 故井上 伸司 副会長 深田 益弘

五代会長 故井上 伸司 副会長 秋山 勝 副会長 深田 益弘

六代会長 秋山 勝 副会長 小出 幸雄 副会長 金子 勝弘

磐南5市町村合併と体協

平成17年4月に磐南5市町村（磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村）が合併したことにより、新磐田市となり、組織が変わる。

NPO法人磐田市体育協会豊岡支部となる。

支部長 小出 幸雄 副支部長 緩鹿 秀夫

豊岡村駅伝競走大会について

競技の終わり、1977年（昭和52年）第1回豊岡村駅伝競走大会がスタートした、長きにわたり豊岡村各自治会単位でチーム編成し歴史の一ページとなる。

豊岡村を東西南北一周（22.8km 13区間）総合センター多目的運動場発着。

小学生（男女不問）又は40歳以上男女不問 2名

中学生（男女不問）又は30歳以上男女不問 2名

20歳以上 2名

40歳以上 1名

フリー 6名